

亀田総合病院報

Kameda

2020

7



亀田メディカル・センターの使命

我々は、全ての人々の幸福に貢献するために愛の心をもって常に最高水準の医療を提供し続けることを使命とする

その最も尊ぶところ：患者さまのために全てを優先して貢献すること

その最も尊ぶ財産：職員全員とその間をつなぐ信頼と尊敬

その最も尊ぶ精神：固定概念にとらわれないチャレンジ精神

CONTENTS

亀田総合病院報 No.256 2020年7月号 CONTENTS

- 03 巻頭言“John.C.Wocher元副院長の退任にあたって” 理事長 亀田隆明
- 04 職場最前線(76) 施設管理課 清掃係
- 10 2019年度 患者さま満足度調査結果
- 12 ナースコラム
- 13 来院者
コーチング・スタディーツアー ⑥⑨
- 14 Close Up News
- 21 医療の気になるワード(特別編)
- 22 亀田本舗
- 23 世界ののぞき窓②⑧

※「フレッシュナース」は、時流を鑑み、今後は掲載しないこととなりました。同コーナーを楽しみにされていた皆様にはまことに申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

John.C.Wocher 元副院長の退任にあたって

医療法人鉄蕉会理事長 亀田 隆明

本年6月末をもって、1991年から29年間亀田総合病院に勤務されたジョン・ウォーカーさんが退任されました。亀田総合病院は、1984年以来、当時の副院長宇賀神一夫先生の紹介で、横須賀米海軍病院からのヘリコプター輸送による救急患者の受け入れを行っていましたが、この時米軍病院の事務長として全てに協力して下さったのがウォーカーさんでした。

1986年には、いったんワシントン勤務の発令により離日することになりましたが、この短期間での交流はその後の亀田病院の方向性に計り知れないほど大きな影響を与えました。奥様が素敵な日本人の方で、毎年開かれていた亀田グループの忘年会やパーティーなども何時も揃って出席して下さいました。

ウォーカーさん離日後も横須賀米海軍病院との関係は続いていましたが、1988年、ウォーカーさんが横須賀米海軍病院に再び事務長として戻ってこられたのです。それから両病院の関係はますます深まり、あらゆる分野での交流が進み、亀田のグローバル化は加速してゆきました。

1991年、ウォーカーさんは30年勤め上げた米海軍を中佐として退官、アメリカの医療管理学修士号(MHA)をもつ管理部長として亀田総合病院に着任しました。亀田総合病院におけるウォーカーさんは、マスタープランの推進、外国人患者受け入れ態勢整備、アイオワ大学をはじめとする多くの海外の一流病院との交流、優秀な研修医が集まる基礎となった優れた教育スキルを持つ外国人指導医の獲得

など大きな功績を残されています。

また、2009年には、ウォーカーさんが長年亀田総合病院に根づかせた医療安全管理の成果として、わが国最初のJCI認証取得を実現させました。その後も、海外の優れたシステムを当院に紹介し続けて下さいました。

私が病院のヴィジョンを語るとき、「Local & Global」を目指すと言いますが、まさにこれを実践されているのがウォーカーさんです。ウォーカーさんは病院に近い鴨川市内の小山を購入し、フロンティア精神で開拓し、素晴らしい終の棲家を建てられました。

ユーモアたっぷりの優しい人柄、絵画や写真などアートに秀でた才能を持ち、ワインをこよなく愛し、素晴らしい奥様とともに、時々たずねて来られるお子様たち、お孫さん達とゆっくりした時間を愛する鴨川の地で過ごされとのこと。今後とも非常勤顧問としてアドバイスをいただくこととなりますが、是非素敵な時間をお過ごし下さい。



海外からの研修生を指導するウォーカー元副院長

職場最前線

76

《施設管理課 清掃係》



2000年代に入り出現したSARSコロナウイルス(重症急性呼吸器症候群), 2012年に報告されて以来いまだ収束していないMARSコロナウイルス(中東呼吸器症候群), そして今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19), このように未知のウイルスや細菌が次々に出現してくる現代。医療機関においては清掃業務イコール感染対策といっても過言ではない時代になってきました。そこで今回は施設管理課の清掃係にお邪魔してみました。



清掃系の歴史

1985年に立ち上げたグループ内の株式会社ケイティエスHK(ハウスキーピング)課をルーツに持ち、病院清掃としては35年の歴史を持っています。2014年6月にアウトソーシングをやめ施設管理課に転籍・再スタートし、現在に至ります。清掃係は苅込敏明係長(写真)以下、57名のスタッフが所属し、管轄エリアによって以下の2つのチームに分かれています。亀田クリニックの1階から5階、PET-CTセンター、がん治療のためのC棟は、夜間清掃のため専門の外部業者に委託し、患者さまのいらっしゃる時間帯に清掃を行っています。



ルームアテンダントチーム：

Kタワー専門。常に2名体制で清掃、ゴミ回収、床掃除、トイレや水回り清掃、医療廃棄物回収、ベッドメイキングなど、ほぼすべてを行う。職員5名、パートタイマー15名、技能実習生5名の計25名。



ハウスキーピングチーム：

Kタワー以外の入院病棟専門。救命救急センター、透析センター、サービス棟、クリニック6階、リハビリテーション病院を管轄。ベッドメイキングは同じ施設管理課のリネン係にお願いし、それ以外の清掃を基本1名体制で担当。職員7名、パートタイマー21名、技能実習生4名の計32名。



スタッフ教育の徹底

病院清掃における感染対策で大切なのは、正しい情報とルールに基づいて行動することです。日頃から、地域感染症疫学・予防センターの古谷直子副センター長(以下、古谷さん)など感染管理の専門家に直接指導を仰ぎ、感染管理手技を徹底しています。

また適切な対応を指示しても、それをスタッフが実践できなければ意味がありません。感染症が発生してから急に手洗いを励行しても、すべての清掃スタッフが適切な手洗いを適切なタイミングで行うことは難しいでしょう。感染対策の知識を学び、「なぜ、それをしなければならないのか」を理解しなければ、正しい行動

にはつながりません。医療サービスを提供するすべての場所で適用される標準予防措置策(スタンダードプリコーション)を守り、患者さまや来院者だけでなく、スタッフ同士、そのご家族や友人など大切な人たちを危険から守るため「うつらない うつさない」を徹底しています。

入職すると、医師や看護師、医療技術職などと同様、清掃係も全員抗体検査を受け、必要な予防接種やワクチン接種をきちんと受けなければなりません。これも大切な人たちを守るための予防対策の一環です。清掃の現場には隠れた危険がたくさん潜んでいます。中でも「針刺し事故」は要注意です。あってはならないことですからそのための教育はくり返し徹底して行われます。

教育全般については、おおよそ1～2か月を目安に、マニュアルに沿って「清掃方法」「道具の種類」「洗剤の種類」「管理方法や使い方」「マナー」「防災」「院内ルール」など多岐にわたる項目を学びます。

掃除のプロとは

どのような仕事でも、まず基礎知識が必要です。特に目に見えない敵を相手にする場合には、なおさら相手のことを正しく理解することが大事です。感染症にはどのような種類があり、菌はどのような方法で伝播してゆくのか、感染を広げないためにはどう対処すれば良いのか、洗剤

の種類・特性を正しく理解し、どう使い分けるのか、適切な処理方法と注意点など、感染のメカニズムや除菌・殺菌の基本、洗剤の種類別の特徴などを理解していなければ闘うことはできません。

洗剤には酸性、中性、アルカリ性などの種類があります。よごれた素材が布なのかカーペットなのか紙なのか、道具選びも重要です。当然病院の清掃は一般家庭の清掃とは異なります。感染物の廃棄方法も厳密に決められています。

病院で働く ということの「覚悟」

特に新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)のように新たに出現した感染症の場合、PPE※などを装着した陰圧室など特殊な病室の清掃作業も発生します。マスクの正しいつけ方やさまざまな防具を身につける順番、取り外す際の注意など、着脱方法をきちんと感染症の専門看護師の指導を受け、DVDでも時々確認し、徹底した教育を行っているとのこと。今時の職員は、エプロンスタイルのガウンの場合、後ろ手で蝶々結びができず苦戦するそうです。

※PPE(Personal Protective Equipment=個人防護具):患者や医療従事者を感染や汚染から守るため、標準予防措置(スタンダードプリコーション)として、患者の血液・体液・分泌物・排泄物などをすべて感染源と見なし、感染症の有無にかかわらず使用するマスクや手袋、ガウン、フェイスシールドなどのこと。

1月29日に、中国湖北省武漢市から政府のチャーター機第一便で帰国された方191名が勝浦ホテル三日月に収容されました。その方々の健康管理や感染管理対策、PCR検査陽性者の治療を当院が担当することとなり、職員にも少なからず動揺が広がりました。仕事上直接かかわる可能性のある清掃係の皆さんの不安が大きかったことは容易に想像できます。そこで、苅込係長は感染管理の専門家である古谷さんの指導をあらためてお願いしたそうです。

陰圧室の清掃を正しく行うためには、まず部屋の仕組みを覚えなければなりません。たとえば室内の圧を調整しているスイッチのオン・オフなど機械設備の取扱も必須です。また、一度陰圧室の中に入れたものはすべて破棄するといった特別な決まりがありますから、遵守しなければなりません。慣れないことの多さに相当プレッシャーがかかりますが、「きちんとルールを守れば大丈夫」と、古谷さんはスタッフが落ち着きを取り戻すまで、何度も何度もレクチャーしてくれたそうです。一人一人が病院で働くということの覚悟を問われ、向き合い、乗り越えることができた貴重な体験だったそうです。

ISO, JCIで 変わったこと

職員厚生課の安全衛生委員会が行う巡視により、有害物質の取扱方法や管理方法など、特に病室などの清

掃に関しては学んでいたつもりでも、自分たちの働く職場の環境にまで目が行き届かなかったものがずいぶん変わったとのこと。

オフィスの入口には、スタッフだけでなく訪問者の目につく場所に消毒薬が設置されており、苅込係長の「衛生や清掃の基準を自分たちで作る、誰がやっても品質が標準化されていることが、もっとも大事なこと」という言葉を裏づける徹底ぶりがかがえます。

常に人手不足で人員確保が難しい職種ではあるものの、何とか働きやすい環境を作り、やりがいや成長の度合いが本人にも分かるような基準作りに大きな推進力になったということです。

例えば、仕事のスピードが速い人もいれば、丁寧だけれどもど時間のかかる人もいます。だからと言って一日の作業量に大きな個人差があったのではシフトが回せません。そこで苅込係長は、さまざまなタイプの清掃場所の基本的なタイムスケジュールを作成しています。



まず入室したらどこから作業を開始し、どの順番で作業を進め、おおむねどのくらいの時間で完了するかまで、すべての部屋の仕様によってマ

ニュアルが作られています。例えば4床室は25分間で作業を終えなければなりません。人によっては窮屈に思えるかもしれませんが、自分の作業ペースが他の人と比べ遅いのか早いのかの目安がつくため、やり易くなったとスタッフの評価は良いそうです。

パートタイマーの方は、入れ替わりが多いため、教育については小テスト方式で覚えてもらい、年1回個々の評価を行うそうです。勤務時間が朝8時からと9時からの2パターンあり、個々の都合に合わせて就業時間が違うため、毎週1回月曜日のお昼の時間帯に全員参加のショートミーティングを行っています。

時間としては5分から10分程度ですが、大事なお知らせや注意などの情報を共有し、最後は「失礼いたします。こんにちば、お掃除よろしいですか」と元気に唱和して午後の仕事に就きます。このフレーズは、スタッフが病室に入る時に必ず患者さまに対して行うご挨拶だそうです。

身だしなみやマナー教育にも厳しい目が光ります。Kタワーの患者さまから「衣服についたタバコのおいが気になる」とご指摘をいただいて以来、特に“におい”に気をつけているそうです。しかし清潔に気を配るあまり、最近問題になっているのが洗濯洗剤や柔軟剤、シャンプーやコンディショナーの“残り香”問題だそうです。

グローバル化の波

清掃係では、海外からの技能実習生として、ベトナムから1年間に3名ずつ受け入れているそうで、現在第3期生まで計9名が働いています。19歳から26歳までの全員女性で、言葉や習慣などの違いなどいろいろな不安も大きい中、がんばっているそうです。



主に教育を担当した内山美恵係長代理(写真)は、ベトナム語を調べて「次はトイレに行ってください」な

どの指示をひとつずつ紙に書いてマニュアルを作り対応したそうです。でも「そうじ」は理解できても「清掃」はわからない。「ここ」はわかっても「あそこ」はわからないなど、手探り状態がしばらく続きました。でも「慣れない外国で親元を離れて寂しいだろうし、ホームシックにならないよう、自分の娘のように接しようと覚悟を決めました」とのこと。

ベトナム人は日本人に似て、真面目で勤勉。一緒に働いてとても楽しいと内山さん。中でも第1期生のハノイ出身のファム ティータムさん(写真)は特に努力家で、3年目を迎



え日本語通訳はもちろん後輩の面倒を見たり、指導を任せられるリーダー格。しかしベトナムからの技能実習生の任期は3年間と決まっているため、今年でひとまず帰国することになります。今度は受入れ側の指導者として来日してくれないかと期待していると刃込係長。

タムさん本人は、ベトナムに帰国してもまた亀田で働きたいと思っているそうで、「職場の皆さんはやさしいし、良い人たちばかりです。後輩には自分が来日した時の困った経験を活かしてアドバイスをしてあげたい」とのこと。来日当初はほとんど日本語が話せなかったため、ベトナムにはない折り紙をネットで勉強し、鶴を折れるように練習してきたとか。内山さんは最初の頃、この折り紙で昼休みにコミュニケーションを図り、お互いの距離を縮めることができた振り返ります。



病院の環境整備

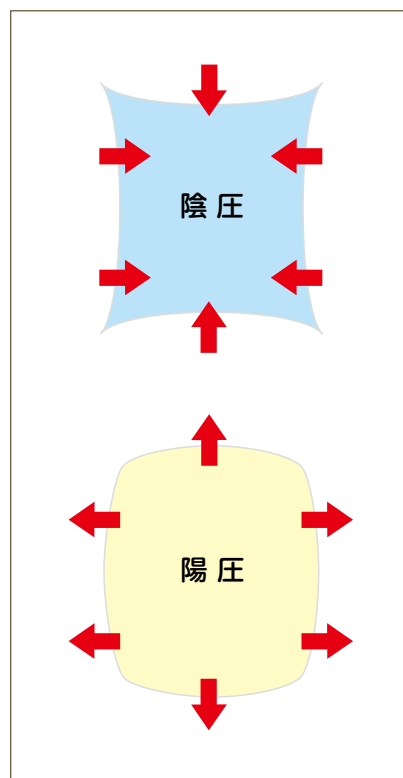
患者さまに安全・安心で清潔な療養環境を提供するため、当院では、院内を図のように高度清潔区域、清潔区域、準清潔区域、一般清潔区域、汚染管理区域の5つに区分（ゾーニング）しています。

名称	該当室（代表例）	室内圧
高度 清潔区域	バイオクリーン手術室（1室）	陽圧
清潔区域	一般手術室	
準清潔 区域	ICU・CCU・NICU	
	血管造影室	
	分娩室・手術室前室	等圧
一般清潔 区域	一般病室・診察室・待合室	
	X線撮影室・操作室	
	CT室・MRI室・調剤室	陰圧
汚染管理 区域	細菌検査室	
	空気感染症病室	
	汚物処理室・ごみ処理室	

陰圧室と陽圧室

今回の新型コロナの報道で良く耳にした「陰圧室（いんあつしつ、depressurized room）」とは、室内の空気や空気感染する可能性のある細菌が外部に流出しないよう、気圧を低くしてある部屋のことを言います。主に、空気感染力が高い疾患（結核、水痘、麻疹）の治療室として使用され、今回の新型コロナのように飛

沫感染の治療にも使われます。



逆に「陽圧室（ようあつしつ、pressurized room）」とは、急性骨髄性白血病のように抵抗力の弱い患者さまを、周囲の汚染から守るために逆隔離するため、室内の気圧を高く設定している部屋のことで、無菌病室とも言います。



カートの秘密

清掃道具一式をコンパクトに収めたカートは、作業効率を上げるための秘密兵器ですが、皆さんは清掃系の扱うカートには2種類あることをご存知でしょうか。

ひとつは装備品が外から見えるタイプ。もうひとつは外側に扉をつけて、中が見えないタイプ。後者のカートは、Kタワーの開業前に信介院長から、「ハサミやスクレーパー*などを、凶器になるものが収められていることを外から見えないようなカートを作してほしい」と指示を受けて作ったそうです。これまでも小児病棟や精神科病棟ではそうした仕様のカートを用いていましたが、ISOの指導もあり、カートの中味を全面的に見直したそうです。病棟内バックヤードの保管場所の衛生管理には十分配慮しています。

拭き掃除の基本はモップ掛け。バケツでジャバジャバ洗ったモップを備え付けのしぼり機で水気を切りますが、モップで拭いた後の濡れた床でスタッフの転倒事故が発生したことがきっかけで、現在モップを使わない拭き上げ方法に変えようとしています。

※スクレーパー（scraper）：物質の外表面（または外表面に付着したチューイングガムや、堆積物）を削ったり、こそげとる刃状、へら状の器具。



A 棟カート



Kタワーカート



「きれい」と「よごれ」 は奥が深い

目に見えないウイルスと人類の闘いに終わりはないかも知れない、と今回の新型コロナは教えてくれました。発症した人だけの健康問題ではなく、濃厚接触者となってしまう家族や職場の仲間、それ以外に接触した人たち…。そのためあつという間に世界中を席卷し、東京オリ・パラ2020の開催延期をはじめとしたありとあらゆる社会構造やシステムを破壊し、大混乱に陥れました。原稿をまとめている2020年5月下旬の段階でも、いまだ収束は見えません。もしかすると収束自体が存在しない可能性もあります。こうした未知のウイルスはこれからも次々と生まれ、そのたびに人類は英知をしばり、うまく付き合っていくことになるのでしょうか。

かつてはきつい、きたない、危険の

3Kと呼ばれ、「誰にでもできる簡単な仕事として、低く見られた」(荻込係長)清掃という仕事の価値が、あの2020年のCOVID-19からまったく変わったと、近未来の人たちは言うのかもしれません。

ひと口に「きれい」とか「清潔」といいますが、これから私たちは何を基準に「きれい」とか「清潔」を定義するのでしょうか。同様に「よごれ」と「不潔」はどのようにカテゴライズされてゆくのでしょうか。今後清掃はさらに進化し、医療や介護現場の感染管理の中心メンバーとして活躍する時代がやって来るかもしれません。

信介院長がよく口にされる「30年後も残っている仕事は今の3割！」というフレーズが取材をしながらしきりに浮かんできました。



2019年度 患者さま満足度調査結果

■ 調査概要

調査期間：亀田クリニック 2019年11月25日～11月30日（計6日間）
 亀田総合病院（入院） 2019年11月 5日～11月30日（計26日間）
 亀田総合病院（救急） 2019年11月 7日～11月13日（計7日間）
 亀田リハビリテーション病院 2019年12月13日～2020年1月31日（計50日間）

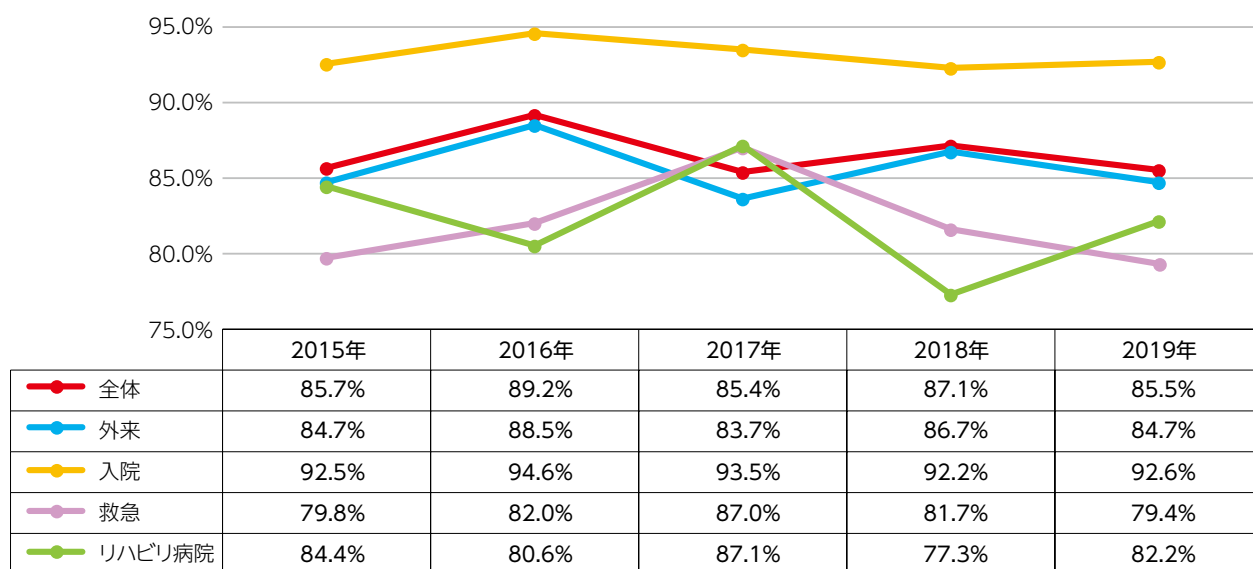
対象施設：亀田クリニック，亀田総合病院（入院，救急），亀田リハビリテーション病院

調査形式：紙媒体の調査票を用いたアンケート。回答者が院内の回収ボックスに投函し，アンケートを回収。

回収結果：全体の回収数（回収率）は 2,393（83.6%），施設別では外来 1,727（90.9%），入院 451（62.9%），救急 170（91%），リハビリテーション病院 45（82.2%）であった。

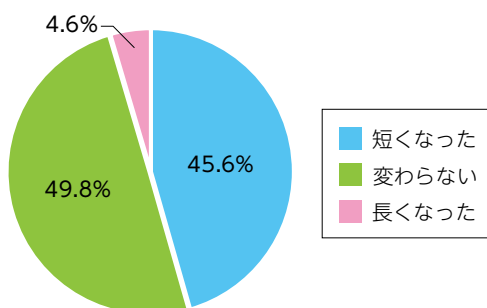
■ 施設別満足度

施設別満足度



■ 外来

採血・採尿の待ち時間について（n=1284）



★ 自動再来受付機と運用に関するコメント

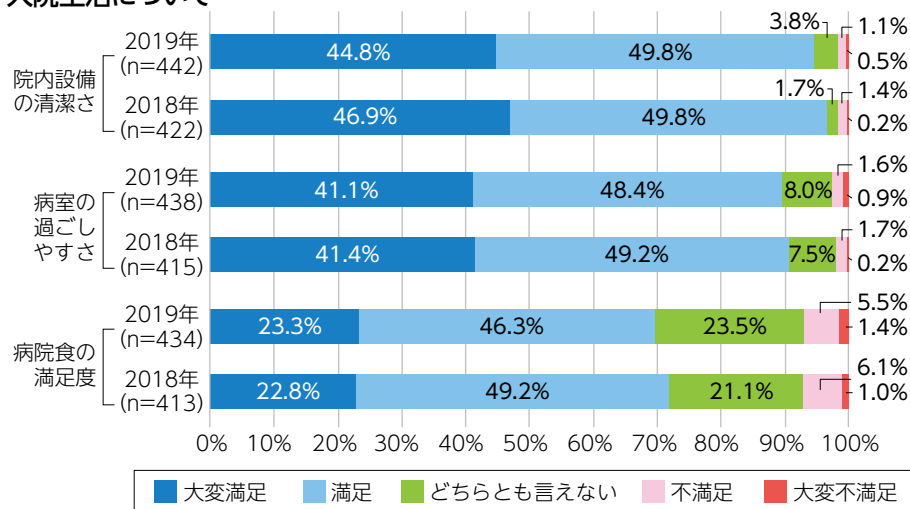
- ・採血室の混雑がなくなり，待ち時間が短くなった。
- ・1時間前まで待たなくてはいけなくなり，診察の予約時間までに検査の結果が間に合わない。

★ 自動再来受付機と運用に関する回答

- 「受付は1時間前から」との設定は，主に採血室の混雑緩和を目的としております。
- 採血検査は概ね1時間以内に結果が出ます。ご理解とご協力をお願いいたします。

■入院

入院生活について

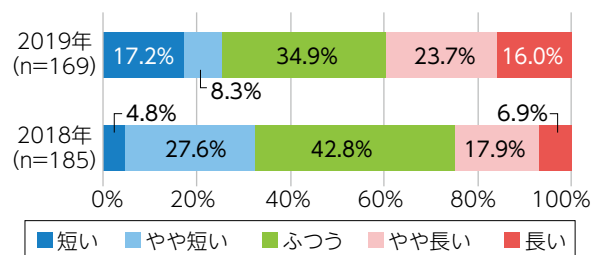


★入院生活に関するコメント

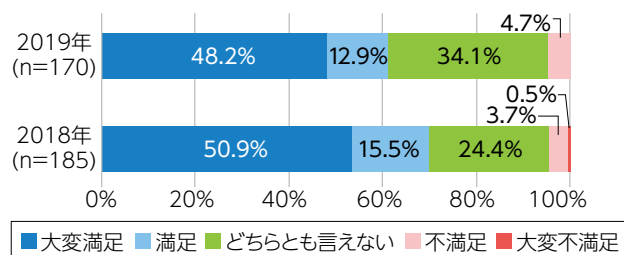
- ・医療スタッフが全員で見守ってくれていると感じられ安心感が強かったです。
- ・色々なサービスが充実していて、とても快適な入院生活でした。
- ・病院食は入院の唯一の楽しみでした。味付け＋優しさで美味しくいただきました。
- ・素晴らしい病院でも、一人悪い職員がいればマイナスのイメージを持てしまいます。

■救命救急センター

診察の待ち時間について



設備の清潔さについて

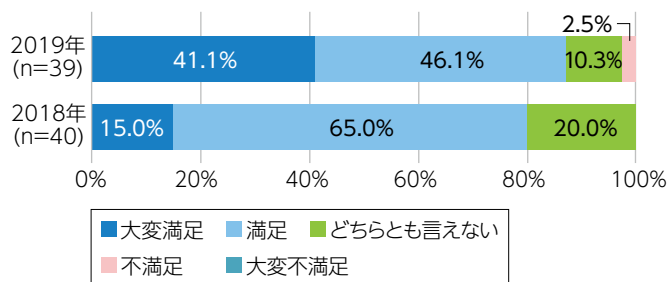


★救命救急センターに関するコメント

- ・子どもで、熱が40度あっても大丈夫って言われた時は内心びっくりしました。高熱があったらまた連れてきます。
- ・救急の先生の対応は親身でよかったです、ありがとうございました。
- ・待ち時間も少なく対応もよかったので満足です。ありがとうございました。
- ・39度の発熱があり、待合室で2時間待つのはつらかった、受診可能な時間をおおよそ伝えてほしい。

■リハビリテーション病院

事務員満足度



★リハビリテーション病院に関するコメント

- ・色々相談にのっていただいたり、こちらの要望に答えていただいたりしてもらいありがたいです。
- ・リハビリ病院に移り、看護学生さんが話し相手になってくださったり優しく接してくれて、家族一同感謝しています。
- ・看護師さん補助者の方にとっても親切にいただきました。特に夜のトイレのお世話等、お風呂も良くいただきました。

今回のアンケート結果を院内各部署にフィードバックし、今後、多職種による委員会で改善活動に取り組んで参ります。
お気づきの点がございましたら、引き続きご意見をいただければ幸いです。



CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

2020年度 医師初期研修

本年度臨床研修課程の初期研修医として第34期生23名が採用され、33期生24名とあわせて47名が臨床研修をスタートさせました。各医師の氏名は次の通り。(敬称略)



※撮影のため、一時的にマスクをはずして撮っております

《1年次生》

○亀田初期研修プログラム

- ・相川 未希 (大分大学)
- ・芦名 功平 (千葉大学)
- ・河合 太樹 (東京医科大学)
- ・栗田 正幸 (北里大学)
- ・竹下 学 (山梨大学)
- ・三石 一成 (筑波大学)
- ・岡部 宏樹 (徳島大学)
- ・青木 沙弥佳 (旭川医科大学)
- ・関根 一樹 (福島県立医科大学)
- ・高橋 良汰 (横浜市立大学)
- ・三好 翔輝 (琉球大学)
- ・柳本 達摩 (岐阜大学)
- ・柴田 泰佑 (佐賀大学)
- ・土井 彩奈未 (北里大学)
- ・安藤 司恩 (東邦大学)

○亀田産婦人科プログラム

- ・長山 理依 (大分大学)
- ・渡邊 桜 (東北大学)

○亀田小児科プログラム

- ・飯島 文香 (東京女子医科大学)
- ・上野 健 (千葉大学)

○地域ジェネラリストプログラム

- ・斉藤 聡大 (琉球大学)
- ・長嶋 友希 (高知大学)
- ・西方 一将 (弘前大学)
- ・森川 敬太 (東京大学)

《2年次生》

○亀田内科系プログラム

- ・青島 あずさ (日本医科大学)
- ・黒崎 元博 (東京慈恵会医科大学)
- ・小森 宏太郎 (山口大学)
- ・司馬 熙 (東京大学)
- ・瀬口 京介 (近畿大学)
- ・中込 峻 (日本医科大学)
- ・野崎 小百美 (東京女子医科大学)
- ・安永 光毅 (順天堂大学)

○亀田外科系プログラム

- ・木口 詩苑 (奈良県立医科大学)
- ・林 賢一郎 (昭和大学)
- ・張本 英男 (千葉大学)
- ・深貝 隆太郎 (東邦大学)
- ・藤本 隆士 (順天堂大学)
- ・宮嶋 康次郎 (旭川医科大学)
- ・吉田 沙生 (鳥取大学)

○亀田麻酔・救急・集中治療プログラム

- ・金 颯 (大阪大学)

○亀田産婦人科プログラム

- ・李 培雯 (北京大学)

○亀田小児科プログラム

- ・橘高 康文 (大阪大学)
- ・笹岡 麻実 (東北大学)

○亀田病理プログラム

- ・原田 俊介 (神戸大学)

○地域ジェネラリストプログラム

- ・中島 浩一 (千葉大学)
- ・篠崎 萌 (弘前大学)
- ・山田 真子 (東京女子医科大学)
- ・吉羽 史織 (秋田大学)

2020年度 歯科医師臨床研修

歯科医師卒後研修室では、研修歯科医として以下の8名が採用され、辞令交付が行われました。(敬称略)

- ・大西 眞実(東京歯科大学)
- ・小野 哲義(日本歯科大学新潟生命歯学部)
- ・池谷 侑(東京歯科大学)
- ・小出 耀(日本歯科大学新潟生命歯学部)
- ・蓮沼 和也(日本大学松戸歯学部)
- ・牧野 将大(愛知学院大学歯学部)
- ・森永 楓(朝日大学歯学部)
- ・山口 明日香(日本大学歯学部)



※撮影のため、一時的にマスクをはずして撮っております

お薬引換番号がスマートフォンで確認できます!

政府から新しい生活様式の実践例が提案されていますが、亀田クリニック(亀田省吾院長)でも、新型コロナウイルス感染防止のため、薬局周辺の密を避ける(人と人の距離の確保)対策として、ご自身のスマートフォンやインターネットで、お薬引換番号を確認できるサービスを始めました。

利用された方からは、待ち時間の有効活用ができ、とても便利になったという声が届いています。

以下の亀田のホームページからもご確認できます。

<http://www.kameda.com/ja/clinic/info/news/detail/351.html>



Customer Voice AWARD 2019



※撮影のため、一時的にマスクをはずして撮っております

5月15日(金)午前、「Customer Voice AWARD 2019」の授賞式が亀田総合病院A棟9階小会議室にて開催されました。

「Customer Voice AWARD」は、患者さまやそのご家族さまより、主にカスタマーコンタクトセンター及び退院時アンケートに寄せられたお声の中から、特にお褒めいただいた職員や部署を表

彰するもので、2019年度は以下の3部署が選ばれました。

- ・看護部 患者エスコートサービス室
- ・看護部 K棟5階
- ・看護部 K棟12階

いずれも看護部からの受賞で、それぞれ患者さまへの丁寧な声掛けや、職種をまたいだ職員間のコミュニケーションの良さ、患者さまの不安な気持ちに寄り添う看護師の姿勢について、患者さまやそのご家族さまより感謝の声をいただいたの受賞となりました。

授賞式では、カスタマーコンタクトセンターから柚木正哉センター長、後藤裕子副センター長、寺下智美係長と、看護部を代表して丸山祝子看護部長、神作聖美副部長、部署を代表して永井三枝師長(患者エスコートサービス室)、影山ユウ子師長(K棟5階)、利田良和師長、花澤恵理子主任(K棟12階)が出席し、亀田信介亀田総合病院院長より表彰状が贈られました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19） 感染対策本部を立ち上げて対応

今年1月6日、厚生労働省は「中華人民共和国湖北省武漢市において、昨年12月以降、原因となる病原体が特定されていない肺炎の発生が複数報告された」と発表しました。

その後、1月9日には世界保健機関（WHO）が「中国当局が武漢市で入院した肺炎患者から新型コロナウイルスを検出した」と発表。さらに1月13日にはタイで、1月16日には日本国内においても武漢市内に滞在歴のある患者から新型コロナウイルスが検出されたことが発表されました。以降も患者発生が次々と報告されていることを踏まえ、1月28日、新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」および

「検疫感染症」に定める政省令が公布（2月1日施行）されるなど、国内での新型コロナウイルス感染症の対応が本格化していきました。

当院においては、比較的早い時期から新型コロナウイルス感染症の診療活動をスタートしました。2月25日には、院内に「新型コロナウイルス感染対策本部」を立ち上げ、地域の高度急性期医療を担う医療機関として一般診療を維持しつつ、海外や国内、地域での発生状況等を注視しながら、院内の感染対策を講じてきました。原稿をまとめている5月末の時点でも感染対策本部の活動は続いていますが、以下にこれまでの当院の取り組みを記録します。

日時	活動内容
2020 1/29	中国湖北省武漢市から政府チャーター機（第1便）で帰国した日本人のうち宿泊施設での経過観察を希望した191人を勝浦ホテル三日月に収容・隔離。期間中、当院感染症科の医師や看護師がホテルに常駐し、24時間体制で帰国者の健康管理や感染管理対策を行った。以降、亀田総合病院では結核モデル病床を利用し、PCR陽性者の入院・隔離、体調不良者の入院加療を行った。
1/30	細川直登感染症科部長 職員向けに「三日月に宿泊中の帰国者に関する本日の対応について」メール配信。
1/30	WHOは、新型コロナウイルス感染症について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言。
1/31	細川直登感染症科部長 鴨川市役所で説明会にて講演。（対象は安房地域の行政職員や保健所・消防、教育関係者ら100名）
2/1	新型コロナウイルス感染症が、指定感染症・検疫感染症に指定。
2/3	細川直登感染症科部長 勝浦市で行われた市民向け説明会（「新型コロナウイルスの現状と対策」）にて講演。（対象は市民300名）
2/4	地域感染症疫学・予防センター マスクの在庫不足を受け、「マスクの使用制限」について配信。（咳エチケット、患者さまと直接接する職員のみマスク着用）
2/8	地域感染症疫学・予防センター 職員向けに「新型コロナウイルス感染症の対応について」配信。（疫学情報、亀田メディカルセンターでの対応、具体的な感染予防策）
2/11	WHOは、新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」と定める。
2/19	亀田隆明理事長 職員向けに「新型コロナウイルスの対応について」配信。

2/21	細川直登感染症科部長 新型コロナウイルス感染症をテーマに職員向け講演を開催(第2回感染症トピックス「新型コロナウイルス感染症の対応について」)。
2/25	院内に「新型コロナウイルス感染対策本部」(以下感染対策本部)を設置。(本部長:細川直登感染症科部長, 副本部長:大澤良介感染症科部長, 古谷直子ICN, 事務局:地域感染症疫学・予防センター) 以降, 政府や厚生労働省の方針, 海外や国内, 地域での流行状況を注視しながら, 感染対策本部を中心に「亀田グループの職員から一人の感染者も出さないこと」を目標に, 職員と患者さまの安全確保と院内外への感染被害防止を最優先に, 感染対策と診療体制を構築。職員一丸となって取り組む。 
2/26	感染対策本部 職員向けに当院の「新型コロナウイルス対策方針」を配信。(職員の活動, 研修の受け入れ, 海外渡航について) また, 細川直登感染対策本部長より, 「新型コロナウイルスの基礎知識」として参考資料をメール配信。
2/28	感染対策本部 職員向けに「新型コロナウイルス対策Q & A」を配信。
3/3	感染対策本部 マスクの在庫不足を受け「マスクの使用ルール」を変更。(マスクの種類によって利用を制限)
3/6	感染対策本部 日本国内での散発的な報告がされていることを受け, 重症化しやすい肺炎の患者の早期診断を目的に, 「COVID-19 診療フロー」(日中・夜間の対応)を作成し, 職員向けに配信。
//	感染対策本部 (3/10付けで政府から発信された今後の方針を受け) 職員向けに「新型コロナウイルス感染症対策方針」を更新。(カンファレンスは健康状態を確認して実施, 海外渡航する場合は渡航先にかかわらず対策本部へ報告, 対策期間を3/22まで延長)
//	感染対策本部 いよいよマスクの在庫がひっ迫してきたことを受け, 職員の「マスクの使用ルール」をさらに変更。(症状のある人以外はマスクの使用を止め, 標準予防策, 飛沫予防策で必要な場合のみ使用) また, 「手袋・ペーパータオル」についても, 在庫の不足を背景に使い方について注意喚起。
3/11	WHOは, 新型コロナウイルス感染症をパンデミック(世界的な大流行)とみなせると表明。
3/11	感染対策本部 (3/10付で政府から発信された今後の方針を受け)「新型コロナウイルス感染症対策方針について」配信。(対策期間を3/22まで延長, カンファレンスは健康状態を確認して実施, 海外からの研修生の受け入れについて禁止国を追加, 海外渡航する場合は渡航先・渡航機関・渡時行程を対策本部へ報告, 帰国時に渡航先でCOVID-19の流行がある場合は帰国後2週間の自宅での健康観察の必要など)
3/14	感染対策本部 ヨーロッパやアメリカでのさらなる流行を受け, 「新型コロナウイルス感染対策方針」を更新。(不要不急の海外渡航は控える)
3/15	「テレワーク制度の実証を行うための指針(テレワーク実証ガイドライン)」策定。
3/16	亀田クリニック 外来診療(電話による診察, 定期処方箋発行など)運用開始。

3/18	亀田総合病院 飛沫核感染から医療従事者を守る高性能マスクの安定供給が見込めず、他施設からの結核疑いや結核患者の一時受け入れを制限。
//	感染対策本部（海外での流行が続いていることを受け）職員の海外渡航について方針を変更。（不要不急の渡航自粛、どの地域への渡航の場合であっても帰国後は自宅で2週間の健康観察後に職場復帰）
3/19	亀田総合病院・亀田クリニック 受付窓口に飛沫感染防止用のアクリル板を設置。 
3/23	感染対策本部 インフルエンザ感染強化対策解除。一部の対策を継続し、新型コロナウイルス感染症対策へ移行。
//	感染対策本部 職員向け「新型コロナウイルス対策Q & A」を更新。（現行の対応を継続、海外渡航に関連する対策について強化）
//	亀田総合病院 面会を一部制限（面会日より2週間以内に海外渡航歴のある方の面会をお断り）。
3/31	県南でCOVID-19が蔓延した場合を想定して、安房地域の主な病院と代表、医師会長をはじめとした医師会の代表、安房3市の首長をはじめとした行政の代表、保健所長、当院の感染症専門家等が集まり、それぞれの主な役割の明確化と合意形成がなされる。（当院は人工呼吸器を必要とするCOVID-19ハイリスク中等症・重症者の受け入れ、発熱外来、PCR検査の実施を担うことに）
4/1	亀田クリニック すべての来院者に対して、受付での検温を開始。あわせて入館時に手指衛生の実施を呼びかける。
4/3	亀田総合病院 入院病棟での感染予防対策を強化。面会については、不要不急の面会のお断り、面会が必要な場合は1名のみ短時間とする。
//	感染対策本部 職員向け「新型コロナウイルス対策Q & A」を更新。（県をまたいでの移動は公共交通機関の利用を避ける、Webシステムを活用したカンファレンスの推奨、業者などの出入りの制限）
//	感染対策本部 職員向け「COVID-19診療フロー」の更新。（受診者の渡航歴の有無にかかわらず、日常診療として対応）
4/4	サービス施設 営業体制の変更。（4/9・11・20・27、5/8・29更新）
//	人事部 所属長を通じて、在宅勤務を希望する場合の申請等対応について周知。
4/6	感染管理本部 患者さまに向けて「新型コロナウイルス感染症に関連する亀田メディカルセンターの対応について」（感染症患者さまの受入れ体制、職員の感染予防対策、症状がある方の連絡相談先）ホームページで公開。
//	感染対策本部 職員のマスク使用基準（病院で仕事をするすべての職員は症状の有無にかかわらずマスクを着用）を変更、ならびに医療従事者の曝露のリスク評価と対応について情報共有。
4/7	政府は、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、千葉県を含む7都府県「緊急事態宣言」を発出。（対象期間：4/7～5/6の1か月間）。

4/7	周産期母子医療センター 出産・里帰り出産予定妊婦さま向けの情報をホームページで掲載。
//	感染対策本部 南房総市立富山国保病院へ感染対策支援のため訪問。
4/8	亀田隆明理事長 職員向けに「緊急事態宣言発令への亀田グループの対応について」配信。
4/9	県南での新型コロナウイルス感染症の蔓延に備え、人工呼吸器を必要とする重症患者の受け入れに対応する「COVID-19対策TEAM」を発足。
//	亀田信介医療管理本部長 職員向けに「『COVID-19対策TEAM』発足について」配信。
4/10	感染対策本部「訪問者健康チェックリストCOVID-19対応版」を作成。
4/11	D棟1階リハビリテーション室の運用を変更, 各病棟でのリハビリに切替。
//	健康管理センター 人間ドック受診者向け情報をホームページで掲載。(4/15更新)
4/13	感染対策本部 職員向けに(流行状況に基づく)「新型コロナウイルスのフェーズの考え方について」情報共有, また「面会制限について」配信。
4/14	乳腺科 定期受診・手術・抗がん剤・放射線治療について患者さま向け情報をホームページで掲載。(4/27更新)
//	感染対策本部 入院患者さま向けの情報(入院14日前から自宅待機と健康観察の記録のお願い, 面会全面禁止)をホームページで掲載。
//	亀田総合病院(院内の感染対策強化の一環として)A棟1階イートインコーナーの座席数を減らす。
4/15	亀田総合病院 面会を原則禁止とする。
4/16	政府は、緊急事態宣言の対象地域を全国に拡大、千葉県を含む13都道府県を「特定警戒都道府県」に指定。
//	感染対策本部 職員向けに「外出自粛中養成期間中のスポーツ等の実施について」注意喚起。
4/17	亀田総合病院「発熱外来」をスタート。
4/20	総務部 職員向けに「敷地内でのマスクのポイ捨てについて」注意喚起。
4/21	感染対策本部 国保国吉病院組合いすみ医療センターへ感染対策支援のため訪問。
//	情報管理本部「新型コロナウイルス感染対策下でのオンライン診療運用方針」を策定。
4/23	感染対策本部 職員向けにゴールデンウィーク中の行動について、政府の方針に従い移動せず自宅で過ごすよう注意喚起。ならびに、院内感染予防のため、大規模な院内感染が発生した県内の医療機関の事例について厚労省のクラスター対策班によるレポートを情報共有。
4/24	感染対策本部 職員の心理的サポートを目的に、「COVID-19 メンタルサポートチーム(COMST: COVID-19 Mental Support Team)」を発足。
4/25	救命救急センター 職員向けに(新型コロナウイルス対策を踏まえた)「ゴールデンウィーク体制」について配信。
4/27	感染対策本部 職員向けに「入院予定患者さまへの新型コロナウイルス対策について」配信。

4/27	人事部 所属長を通じ、職員の「新型コロナウイルスに関わる休業の取扱い」について周知。
4/28	亀田総合病院 予定入院患者さまへの健康状態確認(入院14日前から自宅待機と健康観察の記録を行う)を開始。
4/29	感染対策本部 千葉市が行う「バーディーホテル千葉」(千葉市中央区)での軽症者受け入れについて、勝浦ホテル三日月での帰国者の経過観察を行ったノウハウを生かし、感染管理対策で医療監修協力。
4/30	リンパ浮腫センター 定期受診・手術について患者さま向け情報をホームページで掲載。
5/4	政府は、緊急事態宣言5月31日まで延長決定(対象：全国)。
5/6	細川直登感染対策本部長 正しい情報を共有することで、事態を理解し、判断する知識を共にすることを目的に、職員向けに「COVID通信第1号」をメール配信。
5/8	感染対策本部 職員向けに「新型コロナウイルス感染対策方針について」配信。(対策期間を5/31まで延長)
5/11	「オンライン診療(電話などによる再診・おくすり宅配)」運用を開始。(6/1より運用を一部変更)
5/14	政府は、緊急事態宣言を39県で解除。
5/14	感染対策本部 職員向けに体調不良時の対応について情報配信。
//	感染対策本部 職員向けに「新型コロナウイルス感染症の対応について」配信。(発熱外来、入院時対応)
5/18	腫瘍内科 受診患者さま向け情報をホームページで掲載。
//	細川直登感染対策本部長 職員向けに「COVID通信第2号」をメール配信。
5/21	政府は、緊急事態宣言を関西2府1県で解除。
5/22	感染対策本部(緊急事態宣言解除を見据え) 職員向けに「新型コロナウイルス感染対策方針について」配信。(感染予防の観点で病原体を持ち込まない・拡げない2つのカテゴリーに対策を区分。国が提案している「新しい生活様式」と合わせ院内での対策を実践。対策切替は6/1から)
5/25	政府は、緊急事態宣言を千葉県を含む首都圏1都3県と北海道で解除。
//	亀田隆明理事長 職員向けに「緊急事態宣言解除への鉄蕉会の対応について」配信。
5/26	亀田クリニック 薬局の掲示板でお知らせしているお薬の引換番号がスマートフォンやインターネットで確認できるサービスを開始。
5/27	感染対策本部 「訪問者健康チェックリストCOVID-19対応版」を更新。(来院2週間前の体調確認等を追加)
6/1	感染対策本部 「COVID-19対策TEAM」の待機を解除。
//	亀田総合病院 面会制限を緩和。(原則禁止→2~3名(同居の家族または2親等以下の家族)) 入院予定患者さまへの健康状態確認は継続。

医療の



WFan Hands-Free Ver. II (首かけ扇風機)

「大切な人を暑さから守りたい」というコンセプトから生まれた携帯扇風機のダブルファン。首かけタイプで両手を自由に使えるので、両手をふさいでしまう松葉杖をつきながら、何か作業をしながらなど、いつでもどこでも涼しくなれる便利アイテムです。

軽量で首への負担も少なく、音も静か。ボタン一つで簡単に操作できるので、誰でも簡単に使いこなすことができます。USB充電式なので電池交換は不要。フル充電で最大7時間使用することができます。ただし、髪の毛の長い方は巻き込み防止のため、髪を束ねてからご使用ください。価格は3300円。



今号は…

夏を健やかに過ごす

便利グッズ

コロナ禍の夏がやって来ました。外出自粛による運動不足やマスクの着用などで、例年以上に熱中症のリスクが高まっています。

そこで今回は、いつもとは趣向を変えて、暑い夏を健やかに過ごす便利グッズについて、福祉用品からギフトまで幅広い品物を扱う「ショップPAOLA」(Kタワー1階)のスタッフに聞きました。

CORKICLE CANTEEN (水筒)



熱中症予防のために、こまめな水分補給が言われています。マグボトル「キャンティーン」は、保冷効果6℃以下が6時間、保温効果70℃以上が6時間と、保冷保温効果に優れ、水が入りやすく洗いやすい大きめの飲み口、滑りにくい底面のラバー加工など、使いやすさを追求したデザインが魅力です。

店頭では同メーカーのさまざまなタイプ・サイズの水筒を扱っています。ペットボトルからマグボトルに持ち替えるとゴミの削減にもつながります。価格は3080円から。



ショップPAOLA (パオラ)/亀田コミュニティケアサービス

入院中もお使いいただけるパジャマや室内履きをはじめ、足・膝・腰のトラブル対策用のインソールやサポーター、杖、体重計などヘルスケア商品まで、幅広い商品を取り扱っています。また、ご自宅での療養生活を快適に過ごせるようケアマネージャーやソーシャルワーカー、看護師、リハビリスタッフ等との連携により、福祉用具の提案・発送等のサービスも行っています

営業時間 9:00~17:00

※感染流行の状況により、営業態勢を変更する場合があります

定休日 日曜・祝日

電話番号 04-7093-2026

亀田 本舗

『「作り置き」よりもカンタンでおいしい！ 志麻さんの自宅レシピ』

タサン志麻：作
講談社／1,300円〔税別〕



コロナ禍で窮屈な暮らしが続いているが、怪我の功名とでも言おうか、良いこともあるものだ。こまめな手洗いはもちろん、生活のリズムを見直し、3食しっかり食べるなど、規則正しい暮らしを心がけた結果、身体の調子が非常に良い。

一方で、ここのとこ直面している問題が一つある。それは、料理のレパートリーの乏しさだ。

3食しっかり食べるのはよいが、さすがに1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月とこんな暮らしをしていると、ついつい作るものがワンパターン化してしまい、なんだか食事が味気ない。冷蔵庫の同じ食材で、多彩な料理がつくれたら、毎日の食事はもっと豊かになるはずだ。

そこで思い出したのが、テレビで見かけた「伝説の家政婦」タサン志麻さんだ。番組の中で志麻さんは、芸能人のお宅を訪問し、家族構成や好みに応じて冷蔵庫にある食材で料理の腕を振るうのだが、手際といい、料理のバリ

エーションといい、なんとも見事なのだ。フレンチからエスニック、中東料理まで、特別な調味料や器具は使わずに、どんな料理もパパッと短時間で、いとも容易く仕上げてしまう。また風味の組み合わせのアイデアは、「さすがプロ！」と唸ってしまうほど驚きに満ちていて真似してみたくなる。彼女の料理を食べた人が、ひと口頬張ると「おいしい！」と幸せそうな笑顔をのぞかせるのが、すべてを物語る。

そこでこの機会に、志麻さんのレシピ集の一つを買ってみた。

レシピ集は、「時間がない日のすぐ出来ワンプレートごはん」「時間がない日のすぐ出来る一品おかず」「今日はゆっくりこちそう作り」の3章で構成され、料理の基礎をしっかりと学んだプロのシェフの視点で、家庭で簡単に作れるようなレシピをアレンジしてくれている。とはいえ、やはりプロならではのこだわりもあるようで、レモン、しょうが、にんにくなど香味をプラスする

食材は市販のチューブを使わない、ポタージュは舌ざわりが重要なのでミキサーは欠かせない、冷凍パイ生地は温度管理が重要なのでオーブンの予熱が必要、といった具合に、料理をおいしくするこだわりものぞかせる。

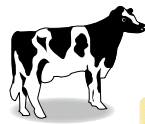
そうして志麻さんのレシピどおりにつくった食事は、どれも手軽で本当に美味しい！やはり料理もポイントを抑えると、時短しながらも、格段にレベルアップした味に仕上げるができるのだ。

新型コロナウイルス感染症とはまだまだ長い付き合いになりそうだ。これをきっかけに新たなことにチャレンジしてみるのもよいかもしれない。私の場合、牛乳を煮詰めてつくる古代のチーズ「蘇」やダルゴナコーヒーなど、SNSの話題に乗っかって日々を楽しむんでいる。

とくに料理は気分転換にもなるのでオススメだ。ただし、食べ過ぎには注意したい。

(蝸牛庵)

世界のぞき窓



第28回 それぞれのステイホーム

かすていら
文明堂

「感染症を広めないため、できる限り自宅にいてほしい」各国政府からそんなメッセージが流れたとき、「なんだそんなことではないのか」と拍子抜けした人は多かったのではないだろうか。すぐさまインターネットでは「ステイホーム(全世界)」「自宅にいてだけでヒーローになれる」「アメリカ」「うちで過ごそう(日本)」「ラクシユマン※のように(インド)」などといった言葉が相次いでトレンド入りした。

「いよいよ田舎の時代が来た」と言うのは室長である。「これまでは田舎はダメだと言われ続けたが、今回に限っては庄巻の勝利だ!!」通勤手段はマイカー派が大多数で満員電車とは縁がなく、普段から人と人の間は十分に空いている。室長は週末フアーマーなので買い物に行かずとも敷地内で新鮮な野菜も手に入る。また田舎では室長がよく「笠じぞう」と呼んでいるシステムも確立している。これは「食べて」と玄関前にそつと野菜や海産物などを差し入れるシステムで、声もかけずに去っていく田舎特有の奥ゆかしい物々交換のスタイルである。ソーシャルディスタンスを完璧に保っている。

さて今回もつとも苦しんでいたのは、普段アウトドア派で仲間とバーベキューを楽しんだり、大勢でパーティなどで盛り上がっているような、いわゆるパリピ(パーティピープル)たちである。オンライン飲

み会などひとしきり楽しんだあとは文字通り時間との戦いが始まったのである。

ここでなぜかアメリカでは生きたヒヨコを飼うことが一大ブームとなる。癒しと実用(卵)の両方が得られるということで、「ヒヨコのパニック買い」という社会現象が起きた。中には「卵」と「にわとり」の両方を同時に注文し、「卵が先か、にわとりが先か」という賭けで盛り上がるような人たちもいた。しかしあまりにも加熱するヒヨコブームに、ついに購入制限や専門家から「ヒヨコをむやみに買わないで」と声明を出す事態になった。

この間、日本人は静かに江戸時代の妖怪「アマビエ」のグッズを制作したり、飛鳥時代のお菓子「蘇」作りに夢中になっていた。前者は「アマビエの絵姿を見ることが流行病から逃れることができる」という伝説に則り、イラストやミニチュアのフィギュア、和菓子など多くのアマビエグッズが登場して暗くなりがちなニュースを盛り上げた。また「蘇」は牛乳を大量に使うお菓子で、給食がなくなってしまう牛乳が余ってしまった酪農家の方々に応援する意味もあり、あつという間に一大ブームとなった。なお実際つくった同僚によると「聖徳太子も食べたのかなと思うと感慨深い味」とのことだった。室長は「あんだ? チッコカタメターノとはちがうのか?」と怪訝な表情だ。

この日本人の自粛中の様子は海外勢におおいにうけたようで、「Pandemic defeating monster: AMABIE(パニックをやっつけるモンスター: アマビエ)」などと海外で紹介され、海外アーティストも多く参加した。「自分の姿を描いてほしかったアマビエにとつては最高の展開だろうな」としみじみ感じた。

この原稿が出る頃にはようやく少しずつ社会が動き出し、会社や学校も再開する日が近づいている。終わりが見えそうだからこそ「自宅は快適だったな」と感じている人も少なくないようだ。社会は少しずつ動いていくが、感染症予防をしつかり心がけ、時にアマビエ様のお姿を見たりして元気に過ごしていきたいと思う。そして将来孫に「コロナが流行っていた時、おじいちゃん/おばあちゃんは何をしたの?」と聞かれたら「江戸時代の妖怪の絵を書いて、飛鳥時代のお菓子を食べたよ」と伝え困惑する顔を見るのを楽しみにしていきたい。

※インドの古典叙事詩「ラーマヤナ」の登場人物で、悪魔に姫が連れ去られないよう、境界を張った。モディ首相がスピーチで引用して話題になった。

コナ退散



